

# BUSINESS REPORT

2023年8月期 2022.9.1 - 2023.8.31



**Koshidaka** HOLDINGS

株式会社 コシダカホールディングス



証券コード2157

成長軌道の完全回復に続き、  
“次の成長ステージ”への飛躍を  
目指してまいります。

代表取締役社長 腰高 博



## Q.1 | 当期は急速なV字回復がさらに加速しました。事業環境と業績結果をお聞かせください

主力のカラオケ事業における当期（2023年8月期）の事業環境は、コロナ禍の影響を完全に脱することができたとは言い難い状況ではありましたが、月を追うごとに良好な環境へと移行しました。具体的には、新型コロナウイルス感染症の拡大第8波を受けた出控え等により2022年11月下旬から最盛期の12月にかけて伸び悩みを見せたものの、2023年1月以降は既存店においてコロナ禍前を上回る推移となりました。その後、5月8日から感染症法の位置づけが5類に変更され、消費行動の平常化が一段と進み、年初来見られているリベンジ消費の顕在化がより一層明確になってきました。その結果、5月以降、既存店の客数

は、コロナ禍前（2019年8月期）を上回る水準で推移しました。

このように着実に良化が進んだ事業環境を背景に、当期の連結業績は、売上が前期比43.8%増の546億円、営業利益が同247.6%増の76億円となり、コロナ禍前の水準（2019年8月期 売上高378億円、営業利益38億円／スピンオフしたカーブス事業の売上・利益を除く）を大幅に超える実績を上げることができました。当期の業績は、“成長軌道の完全回復”とそれに続く“次の成長ステージの始まり”と評価することができると考えております。

## Q.2 | 当期の増収増益の主なポイントを教えてください

当期の増収増益には、いくつかの要因が複合的に関わっていると分析しています。外部要因としては、前述の事業

環境の良化に加え、競合環境の激変があります。コロナ禍の3年間で多くの同業者が事業縮小や廃業に追い込まれ、

相対的に当社の業界ポジション、すなわち市場優位性が急速に高まりました。加えて、当社は、コロナ禍の中にあっても「積極出店」の継続を決断・実行してきたことで、同業他社との差がさらに拡大の一途を辿りました。

また、内部要因としては、独自のオペレーションノウハウによる既存店の効率経営、中期経営ビジョンに基づく店舗の継続的な魅力向上策、店舗の大型化による生産性・効率性のさらなる向上、そして、積極出店の継続による分母（売上の基礎となる店舗数）の着実な拡大、といった多くの要因を挙げることができます。また、利益面では、食材をはじめとしたコスト高や人件費増などを背景にメニューの見直しやルーム料金の改定を行ったことも奏功

しました。

これら外部要因と内部要因の複合的な作用の結果として、当社は、事業環境の良化に伴うプラスの影響を、同業の中で最も大きく享受することができました。これを象徴する数字として、既存店の売上高の伸びに見ることができます。コロナ禍前の2019年8月期対比で見ると、既存店の売上高（同月比）は、5類適用後の5月に18.7%増を示し、その後も拡大が続きました。今後、リベンジ消費は落ち着いてくることが予想されますが、引き続き当社の市場優位性の維持・強化が進むものと考えており、売上・利益ともに“次の成長ステージ”としての拡大が続くと見込んでおります。

## Q.3 | 成長戦略の核である出店政策の進捗を教えてください

コロナ禍の影響を受けた4期の間、当社は「積極出店」を堅持し続け、同時に採算性の低い店舗の整理も進めました。同業他社だけでなく多くの飲食店が退店する状況下でしたので、戦略的ロケーションと位置づけた「駅前繁華街」の店舗開発は、コロナ禍以前よりも容易に押し進めることができました。その結果、一定の抑制は利かせてはいたものの、2019年8月末に525店舗であった国内カラオケ店舗数は、2023年8月期には620店舗と4年で95店舗増加しました。この間、新規出店180店舗、整理した採算低下店舗85店舗と、店舗ポートフォリオ改革も着実に進みました。また、「駅前繁華街」店舗の出店エリアも、首都圏エリアに加え、近畿地区、九州・沖縄地区、その他地方都市部へと広がりを見せております。

次に、コロナ禍前から「店舗の大型化」に着手し、順調に進んでいます。10年ほど前までは1店当たり十数ルームの店舗が多かった状況から、近年は40～50ルームの大型

店も増え、当期出店した53店舗の1店当たり平均ルーム数は32.9ルームとなり、店舗の生産性・効率性が着実に向上しております。

さらに、当社のかつての戦略的ロケーションであった「ロードサイド」型の店舗についても、新たな取り組みをスタートしております。既存のロードサイド店舗の中には、一定の市場ポテンシャルを持った商圈に位置しながら、ルーム数や駐車台数などが少なく市場規模に合っていない、いわゆる小スペック化した店舗が少なからず出てきております。こうした店舗について今、同商圏内の新たな立地にリロケーションしてルーム数・駐車台数ともに大スペック化する施策を押し進め、成果を上げております。全国には、こうした既存店が一定数存在しており、これらを順次リロケーションしていくことで、店舗ポートフォリオ改革がより一層進んでいくものと考えます。

### Q.4 | 当期は「海外展開加速」が宣言されました。方針をお聞かせください

海外展開では、東南アジア諸国を主要エリアと位置づけ、当期から積極出店を再開しております。海外店舗は2023年8月末現在、韓国・マレーシア・タイ・インドネシアの4か国に計17店舗を展開しており、当期は、マレーシアに4店舗、タイに2店舗を新たにオープンしました。

出店が加速しているマレーシアでは、海外事業担当の当社取締役が統轄して積極出店に取り組んでおり、10店舗まで増加してきました。今後は、同取締役が東南アジア各国の事業を統轄していく方針です。そして、その統轄下で店舗の開発やオペレーション管理を担う幹部は現地採用が最適であるとの判断から、その第一号として、インドネシアでローカル人材の採用を行いました。2023年11月には、同ローカル人材が開発した初めての

店舗(当社としてインドネシア2号店)がオープンしました。今後、幹部のローカル採用が成果を上げ、このフォーマットが各国に広がることで、当社グループの海外展開はさらに加速していくものと期待します。



マレーシア Bukit Bintang店

### Q.5 | 最後に、株主の皆様へメッセージをお願いします

中期経営ビジョン「エンタメをインフラに」の実現に向けた当社グループの取り組みは、決して平坦な道程ではありませんが、着実に進捗しております。

最終目標である「売上高1,000億円・30,000ルーム」の達成に向け、マイルストーンである2025年8月期の目標「連結売上高650億円・20,000ルーム」は、コロナ禍に伴う急ブレーキを経験しながらも急速なV字回復を経て、達成は目前となり、最終目標がいよいよ射程内に入っております。

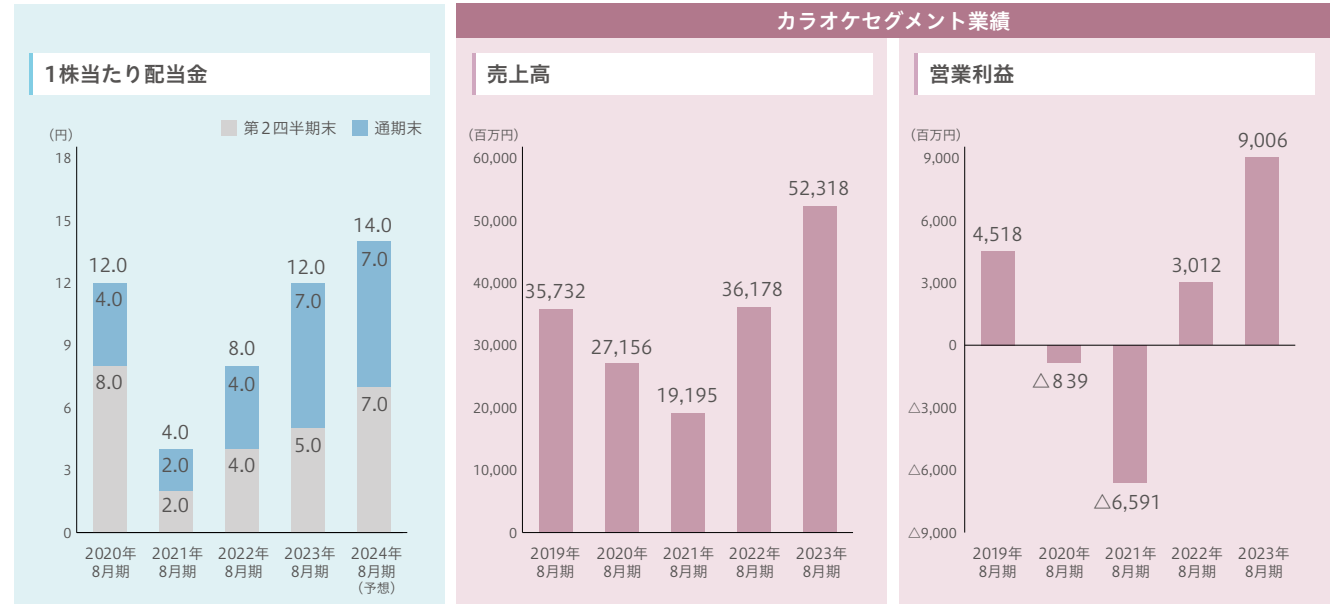
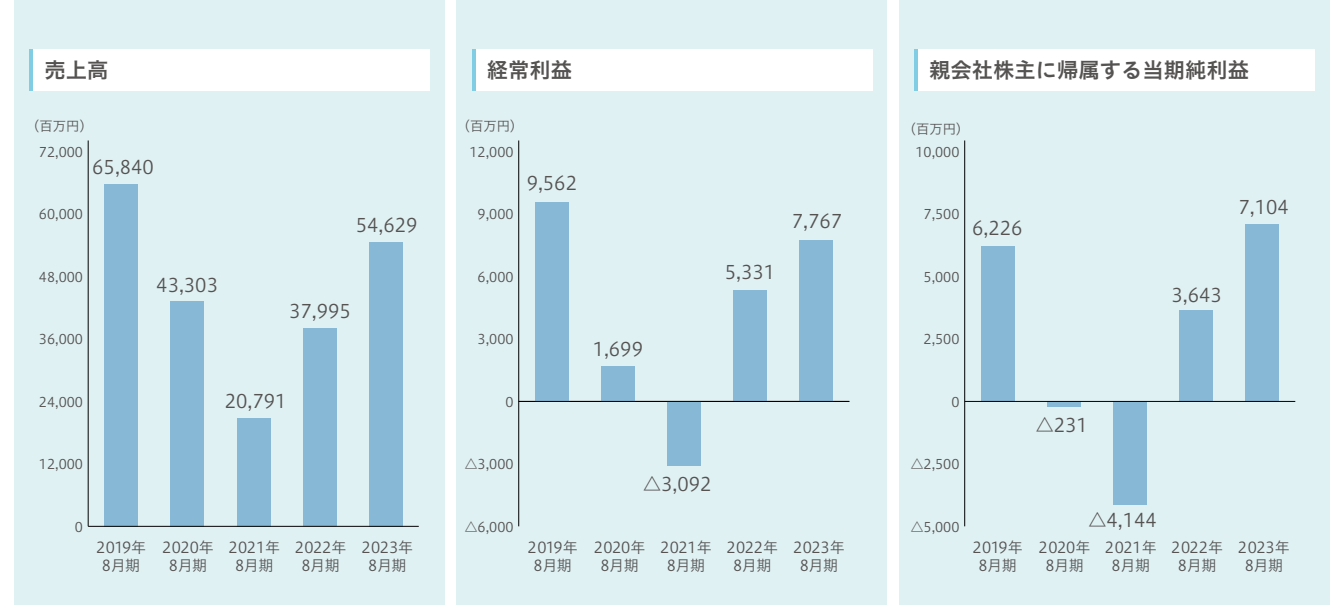
カラオケにとどまらない多様なエンタメ提供に向けたPER<sup>\*</sup>拡充の取り組みについては、多様な試行錯誤を繰り返しながら、「DX推進室」を中心に新サービスの開発や技術・コンテンツの高度化を推し進めております。

さらに、次の成長の柱創出に向けたウェルティンメント事業「カノップ」については、「まねきねこ前橋本店」3階での約1年間の実証実験期間を経て、10月には実験店舗として2号店を都内に店出しました。これを足掛かりに、今後の本格展開に向けた準備を進めてまいります。

カラオケ事業の国内外での展開加速、PER拡充による店舗の魅力のさらなる向上、新規事業「カノップ」の新たな展開などを見据え、当社グループは今後、1,000億円のその先へと目標を再設定する次のフェーズを、少しでも早く株主の皆様へ提示したいと考えております。

当社グループの今後の挑戦にご期待いただき、引き続き変わらぬご支援をお願い申し上げます。

※PER：プライベートエンターテインメントルーム



※2020年8月期までの業績については、2020年8月期を基準日として当社子会社株式の現物配当(スピンオフ)を実施したカーブホールディングスグループの業績も含んでおります。

## 中期経営ビジョンの実現に向けて…

当社グループは、中期経営ビジョンにおいて「売上高1,000億円+30,000ルーム」という目標を掲げ、この高みに向かい先陣を切って突き進んでいます。そこでこの特集では、①今後の躍進の原点とも言える「これまでの歩み」（カラオケ事業33周年）、②今後の成長を演出する新たな「東京本社」の始動、そして、③数値目標に関連する取り組みの進捗状況(売上高やルーム数の推移など)を紹介します。

### カラオケ事業33年の歩み

カラオケボックス1号店の開設から2023年8月で33年となりました。30年の節目がコロナ禍であったことから、2023年9月に33周年を祝う記念式典を行いました。式典では腰高社長から、お客様に喜んで初めて初めてお金がもらえるのだと学んだこと、幾度もの困難に遭う度にそれを乗り越える施策を打つことで大きな成長を実現してきたこと、これからも人々の生活になくてはならないお店を目指すこと、などが語られました。



1997年6月  
カラオケまねきねこ  
居抜き出店1号店  
(群馬県・伊勢崎店)開設

2007年6月  
ジャスダック証券取引所  
に株式上場

- 2010年9月  
株式会社コシダカホールディングスに  
組織、名称変更
- 2010年10月  
温浴施設まねきの湯1号店  
(箕郷温泉まねきの湯)開設
- 2013年11月  
KOSHIDAKA INTERNATIONAL  
PTE.LTD. 設立
- 2016年11月  
東京証券取引所市場第一部に  
市場変更

2020年12月  
AQERU(アクエル)前橋開設

2023年7月  
本社を渋谷区  
道玄坂に移転

2011年11月  
ひとりカラオケ専門店  
ワンカラ1号店  
(東京都・神田駅前店)開設

- 2000年3月  
株式会社コシダカに  
組織、名称変更

- 2020年1月  
日本初スピンオフによる事業分離
- 2022年3月  
アドバンテッジアドバイザーズ株式会社  
と資本事業提携
- 2022年4月  
東京証券取引所プライム市場に移行

1990~

2000~

2010~

2020~

## 東京本社を 渋谷区道玄坂に移転

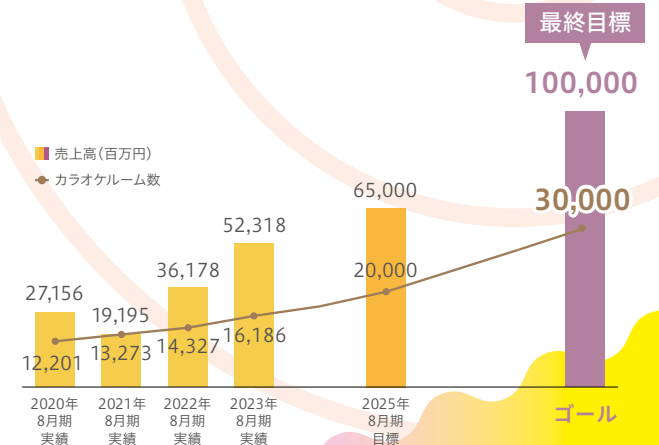
当社グループは、2023年7月に、東京本社を渋谷に移転しました。渋谷は、街に集う多くの企業と人々が発するエネルギーや文化に満ち満ちており、エンタメを追求する企業グループとして企業価値を高めていく上で、非常に魅力的な立地であると感じています。たとえば、「人的資本」強化の面では、エンタメの視点において、従業員の感性が日々刺激される、新規採用に非常に有利である等の利点があります。また、「アライアンスパートナー」強化の面でも、エンタメ関連のコンテンツホルダーやICT技術の会社が集積しており、パートナー獲得に有利な立地です。今後、渋谷を拠点に、成長加速を図ります。

移転先 東京都渋谷区道玄坂2丁目25番12号 道玄坂通10階



## 売上高・ルーム数の着実な増加

「売上高1,000億円+30,000ルーム」という目標に向けた積極的な出店政策は、2つの大きな方針のもとで推し進められています。第一が「駅前繁華街」出店です。首都圏エリアに加え、近畿地区、九州・沖縄地区、その他地方都市部へと展開エリアが広がっています。第二が「店舗の大型化」です。近年では40~50ルームの大型店も急速に増加しています。これらの取り組みにより、売上高・ルーム数ともに目標達成に向け大幅増を続けています。



ゴール

# INFORMATION

## 会社の概要 (2023年8月31日現在)

会社名	株式会社コシダカホールディングス
英訳名	KOSHIDAKA HOLDINGS Co., LTD.
設立年月日	1967年3月31日
東京本社	東京都渋谷区道玄坂2丁目25番12号 道玄坂通10階
前橋本社	群馬県前橋市大友町一丁目5-1
資本金	20億7,025万7,500円
事業内容	カラオケ事業(店舗数：国内625店舗、海外17店舗) 温浴事業(店舗数：2店舗)
従業員数	グループ従業員 5,297名 (正社員 1,042名、パート・アルバイト 4,255名) パート・アルバイトは1日8時間換算人数

## 役員 (2023年8月31日現在)

代表取締役社長	腰高 博	社外取締役	小林 建治
常務取締役	腰高 美和子	社外取締役(常勤監査等委員)	西 智彦
常務取締役	土井 義人	社外取締役(監査等委員)	森内 茂之
取締役	座間 晶	社外取締役(監査等委員)	高井 研一

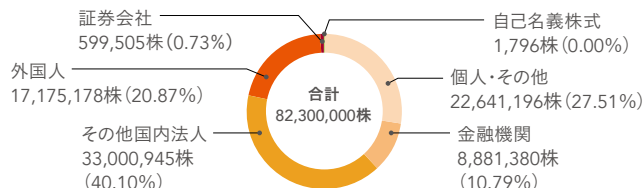
## 大株主 (上位5名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社ヨウザン	21,328,000	25.92
株式会社ふくる	8,368,000	10.17
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE FIDELITY FUNDS	6,605,459	8.03
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,709,500	6.94
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	1,568,973	1.91

## 株式の状況 (2023年8月31日現在)

発行可能株式総数	307,200,000株	株主数	47,295名
発行済株式の総数	82,300,000株		

## 所有者別株式分布状況 (2023年8月31日現在)



## 株主メモ (2023年8月31日現在)

事業年度	毎年9月1日から翌年8月31日まで
定時株主総会	毎年11月下旬
基準日	毎年8月31日
定時株主総会・期末配当中間配当	毎年2月末日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
住所変更のお申出先について	株主様の口座のある証券会社にお申出ください。 なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設された株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
未払配当金の支払いについて	株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

## 株主優待

2023年8月31日現在の株主名簿に記載または記録された100株以上の株式を保有されている株主様に、下記の株主優待の実施を予定しております。

保有株式数	継続保有期間3年未満	継続保有期間3年以上
100株～399株	2,000円相当の株主優待券	4,000円相当の株主優待券
400株～999株	5,000円相当の株主優待券	10,000円相当の株主優待券
1,000株以上	10,000円相当の株主優待券	20,000円相当の株主優待券

※株主優待券は、当社の運営する日本全国のカラオケまねきねこ、ひとりカラオケ専門店ワンカラ、温浴施設でご利用いただけます。なお、「継続保有期間3年以上」に該当する株主様とは、毎年8月末日及び2月末日の株主名簿に「同一の株主番号」で連続して7回以上記載または記録された株主様となります。



株式会社コシダカホールディングス

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂2丁目25番12号 道玄坂通10階



環境に配慮したFSC® 認証紙と植物油インキを使用しています。